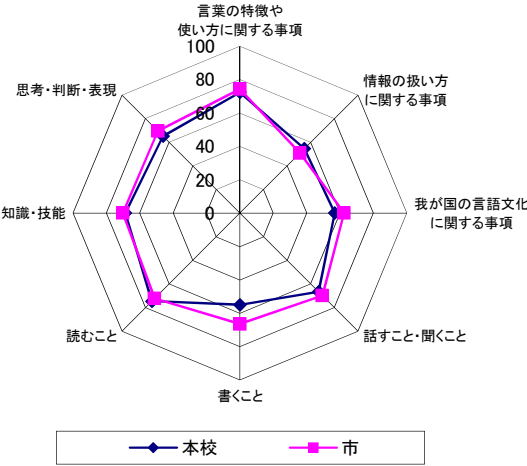


宇都宮市立白沢小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	54.5	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	56.8	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	66.7	69.9	69.7
	書くこと	54.9	66.4	64.6
	読むこと	74.6	72.3	71.0
観点別	知識・技能	68.7	70.1	70.0
	思考・判断・表現	65.2	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

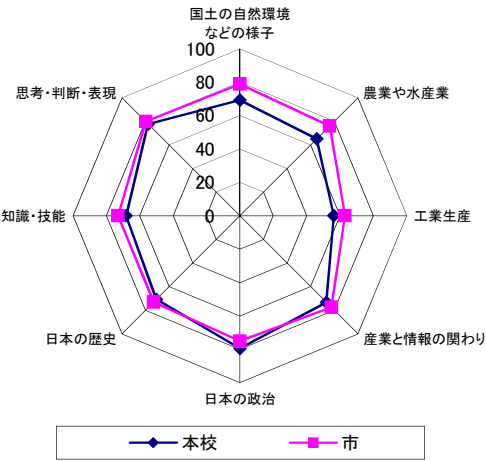
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市平均を2.0ポイント下回っている。 ○3字の熟語の成り立ちについての設問では、正答率が市平均を3.6ポイント上回った。 ●文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使う設問では、正答率が29.5%と市平均を7.2ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、定着を図るために、家庭学習ではドリル等を活用し、国語の授業では毎時間小テストを行うなど、スモールステップの学習を継続的に繰り返し取り組む。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化する。また、教科書に出てくる言葉を一つ一つ活用できるようになるまで、授業で取り立てて扱う時間を増やしていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市平均を3.6ポイント上回っている。 ○報告文を書く際、「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く」設問では、正答率が34.1%と市平均を7.6ポイント上回っている。	・情報活用能力がより高くなるように、複数の文章を並行して読むといった扱い方をする授業を増やしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市平均を5.6ポイント下回っている。 ●漢字の由来についての設問では、正答率が56.8%と、市平均を5.6ポイント下回った。	・漢字の由来や意味などを国語辞典や漢字辞典を活用して調べ、理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均を3.2ポイント下回っている。 ●「計画的に話し合い、考えを広げるための工夫」についての設問では、正答率が84.1%と、市平均を2.0ポイント下回っている。 ●「互いの立場を明確にしながら計画的に話し合う」設問においては、正答率が18.2%と、市平均を7.2ポイント下回っている。	・学級活動や朝の会等での話し合いでは輪番制で司会者となり、話し手の意図を考えながら、内容をまとめる体験をしたり、司会者の様子を見て学んだりできるような場を多く設定する。 ・ペア学習やグループ活動で互いの考えを交流させるなど、学び合い活動において、話すこと・聞くことへの指導の充実を図る。
書くこと	平均正答率は、市平均を11.5ポイント下回っている。 ○「表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」設問では、正答率が93.2%と、市平均を2.4ポイント上回っている。 ●「指定された長さで文章を書く」設問では、正答率が45.5%と、市平均を26.5ポイント下回っている。	・制限時間内で字数制限のある作文を書くことに抵抗感がなくなるように、練習する機会を多く設定する。 ・意見と根拠を明確にして話す指導を、授業中の発言の機会を捉えて日常的に行っていくとともに、意見文の書き方について、意見と根拠を明確にした、作文の型を確実に身に付けられるよう丁寧に指導していく。 ・自分の意見を裏付けるために、予想される反論と、それに対する対応や、賛成しない意見に対する反論を考えたりするような、ディベートなどの機会を設けるようにする。
読むこと	平均正答率は、市平均を2.7ポイント上回っている。 ○「登場人物の心情について、描写をもとに捉える」設問では、正答率が88.6%と、市平均を8.7ポイント上回っている。 ●「文章の論の進め方」の設問では、正答率が72.7%と、市平均を2.3ポイント下回っている。	・物語文や説明文などの文章をある程度のスピードで読み、全体の内容を捉える力がより確かなものになるように、読書の習慣を付ける取組と、読書量を増やす取組を強化する。 ・読み取った内容の考えを互いに交流させる学び合いの学習の充実を図る。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	69.3	78.9	75.4
	農業や水産業	65.2	76.1	71.2
	工業生産	56.3	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	73.3	77.6	59.7
	日本の政治	79.4	75.0	79.3
	日本の歴史	70.8	73.1	72.8
観点別	知識・技能	68.1	73.0	71.4
	思考・判断・表現	77.8	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

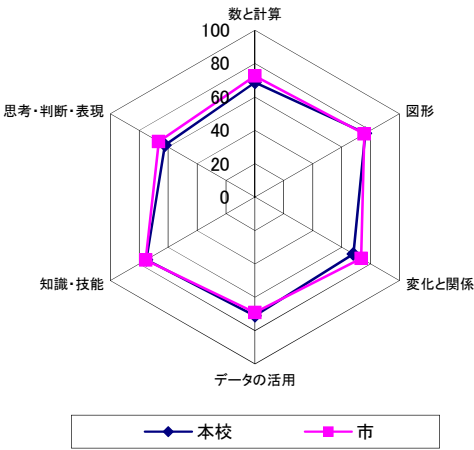
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市平均を9.6ポイント下回っている。 ○津波から生活を守る取り組みについての設問においては、正答率が97.8%と、市平均を0.3ポイント上回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る設問において、正答率が35.6%と、市平均を14.1ポイント下回っている。	・日本周囲の国名や国土の特色だけでなく、地形の名称にも目を向けて、資料集や地図帳などの各種資料を積極的に活用したり、重要なところを繰り返し復習したりして、理解が深まるようにする。
農業や水産業	平均正答率は、市平均を10.9ポイント下回っている。 ●都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量について表を読み取り、白地図にまとめる設問では、正答率が37.8%と、市平均を23.9%下回っている。 ●日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る設問においては、正答率が77.8%と、市平均を5.5ポイント下回っている。	・普段の授業において、資料から読み取れることを自分なりに解釈して理解する力を高めていく。 ・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けていく。
工業生産	平均正答率は、市平均を6.6ポイント下回っている。 ●自動車工場の作業工程における設問において、正答率が77.8%と、市平均を8.7ポイント下回っている。 ●日本の鉱産資源の輸入について、資料を読み取る設問では、正答率が57.8%と、市平均を7.3ポイント下回っている。	・資料をもとにテーマについて考え、自分の言葉で表現することに課題が見られるので、普段から自分の考えをまとめ、表現する機会を積極的に設けていく。 ・工業生産について、資料などを参考に調べ学習を行い、興味関心を高めるようにする。
産業と情報の関わり	平均正答率は、市平均を4.3ポイント下回っている。 ○インターネットを利用するときの注意点における設問では、正答率が91.1%と、市平均を2.2ポイント上回っている。 ●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する設問では、正答率が55.6パーセントと、市平均を10.6ポイント下回っている。	・情報産業が私たちの生活に密着したものであることに気づかせるため、調べ学習を通して自分の考えをまとめ、資料を活用して表現する活動を取り入れる。
日本の政治	平均正答率は、市平均を4.4ポイント上回っている。 ○日本国憲法の三原則についての設問では、正答率が77.8%と、市平均を8.4ポイント上回っている。 ○国会の仕組みに関する設問では、正答率が80.0%と、市平均を8.8ポイント上回っている。	・日本の政治の仕組みについて、資料を用いて調べ学習を行い、興味関心を高めつつ知識の定着を図る。
日本の歴史	平均正答率は、市平均を2.3ポイント下回っている。 ○室町文化に関する設問では、正答率が95.6%と、市平均を21.2ポイント上回っている。 ●元寇についての理解をもとに、資料を読み取る設問では、正答率が64.4%と、市平均を10.8ポイント下回っている。	・各時代の主な出来事や特色について、教科書や資料集などを用いて自分なりにまとめる活動を通して理解を深めるようにする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	68.7	72.6	73.1
	図形	76.4	75.7	74.7
	変化と関係	68.1	73.6	66.1
	データの活用	71.1	69.2	70.7
観点別	知識・技能	75.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	62.2	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

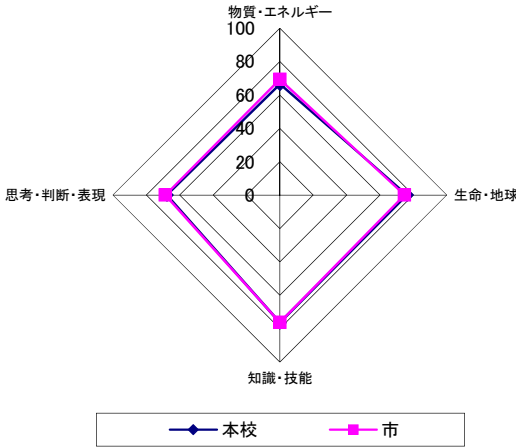
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回った。 ○小数どうしのかけ算、わり算や、図を使った小数倍の文章問題では、市を上回った。 ●分数どうしのかけ算、わり算や、分数の乗法の文章問題にあった式を選ぶ問題では、市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の乗法・除法の計算の仕方を理解させ、分数どうしや分数と整数・小数の混ざった計算ができるよう、ドリルなどで反復練習を進める。 ・課題解決の力が定着するよう、文章題などを数多く解き、数字の表す意味を考えて立式する学習を取り入れる。
図形	平均正答率は、市平均を上回った。 ○三角形の展開図を組み立てたときに重なる頂点を答える問題では、市平均を7.2ポイント上回っている。 ○線対称な図形の対応する点を見つける問題では、市平均を4.4ポイント上回っている。 ●高さが図形の外にある平行四辺形の面積では4.2ポイント、直方体を組み合わせた形の体積では3.6ポイント市の平均より下回っている。	・さまざまな形の面積、体積を求める問題を数多く解かせ、定着を図る。 ・過去に学習してきた内容を振り返り、素地的体験と知識を結びつけながら指導に当たる。
変化と関係	平均正答率は、市平均を下回った。 ○単位量あたりの大きさでどの公園が最も混んでいるかを考察する問題では、市平均を2.3ポイント上回った。 ●分速を秒速や時速に直す問題では、市平均を14.7ポイント下回った。 ●割合のグラフで、半分が何パーセントかを考える問題では、市平均を3.9ポイント下回った。	・単位量あたりの大きさ・速さについて復習し、その意味や求め方を理解、定着させる。 ・速さを求める公式を覚え、しっかりと活用できるようになるまで繰り返し演習する。
データの活用	平均正答率は、市平均を上回った。 ○データの見方のドットプロットから最頻値を読み取る問題では5.6ポイント、度数分布表を完成させる問題では10.2ポイント、それぞれ市平均を上回った。 ●円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では、市平均を3.9ポイント下回った。	・グラフの活用の学習を多くし、割合を読み取ったり、比較量を求めたりする練習を繰り返す。 ・日ごろから代表値を用いて、その記録が全体の中でどのくらいのものになるのかを考える学習を多くする。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.5	69.3	65.7
	生命・地球	76.3	74.7	77.8
観点別	知識・技能	76.3	76.2	76.4
	思考・判断・表現	67.7	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を2.8ポイント下回っている。 ○5年の学習内容である「電磁石の極と方位磁針の指す向きについての設問」では、市の平均正答率を10.9ポイント上回った。 ○6年の学習内容である「空気に含まれている気体で物を燃やす働きがないものを答える設問」や、「火を用いた実験で注意することについての設問」では正答率が93.3%と高く、市の平均正答率を上回った。 ●5年の学習内容である「振り子の1往復する時間を求める設問」では、平均正答率が42.2%と低く、市の平均正答率より10ポイント下回った。 ●5年の学習内容である「水に食塩を溶かしたときの重さを求める設問」や、「ろ過の仕方についての設問」では、市の平均正答率を10ポイント以上下回った。	・今後も日常生活の中で「なぜだろう」と思う事象から授業につなげるなど、日常の生活と理科がつながっていることを実感させる授業展開を行い、興味関心を高めていく。 ・実験を行う際に、「なぜこの実験を行うのか」や「この実験を行うと何が分かるのか」を子供たちと共有し、結果の予想や実験の結果をまとめ、考察するという学習の流れを大切に、科学的な思考力を高める。 ・定期的に5学年での授業内容を復習したり、関連する内容を扱う際には今までに習ったことを想起させたりして、学習内容の定着を図る。 ・実験器具の扱い方について、定期的に指導し、定着を図る。
生命・地球	平均正答率は市の平均を1.6ポイント上回っている。 ○6年の学習内容である「だ液のはたらきを調べるときの水の温度や対照実験についての設問」では、どの設問でも市の平均を正答率が10ポイント以上上回った。 ○6年の学習内容である「日光が植物の生育に必要なことを葉のでんぷんを作るはたらきの観点から記述する設問」では、市の平均正答率を4.1ポイント上回った。 ●6年の学習内容である「生物が取り入れたり出したりする気体の流れについての設問」では、正答率が35.6%と低く、市の平均正答率を7.2ポイント下回った。	・自然の事象や生命に関することにおいて、学習とのつながりを意識した話題を提供し、生活経験や知識の個人差を補充するとともに興味関心を高めるようにする。また、人体の仕組み等実際に観察できないものは、PCや視聴覚教材を利用していくようにする。 ・天体等、実際に観察実験等ができないものについて、これからも自作教材等の工夫を行う。 ・要点を確実に理解するよう、友達に伝えたり、自分の言葉で表現したりする活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立白沢小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現力や思考力が身に付くように指導している。	国語では「読むこと」の領域で平均正答率が市平均を上回ったが、「話すこと・聞くこと」の領域では市平均を若干下回った。算数では「図形」と「データ活用」の領域において、市平均を上回った。
基礎基本の定着を図る朝の学習の充実	国語では漢字・言語事項、算数では主に計算問題を繰り返し学習することで基礎基本の習熟を図っている。	国語の「言語事項」では、半分以上の項目で正答率が市平均を上回っており、一定の成果が見られたが、「書くこと」の領域では、平均正答率が市平均を大きく下回っている。算数では、分数や文字式・速さの計算などの問題で市平均をかなり下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

学習と生活についてのアンケート結果をみると、学年差はあるものの、児童が学習に対する必要性を感じながら、積極的に取り組む姿勢がうかがえる内容であった。また、6年生の学力テストの結果からは、基礎・基本について徐々に身に付いてきている部分もあるが、まだまだ課題も多く見られた。そこで、次年度は今年度の学校課題を継続し、「基礎・基本の定着を図り、表現力を高める言語活動の工夫」を行っていくとともに、積極的に児童用パソコンの活用に努め、「一人一人が主体的に取り組む、いきいきと学び合う児童の育成」に努めていきたい。